

会 議 録

1 会議名

令和8年度 第2回高田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

報告事項（公開）

（1）未利用財産の利活用に向けた取組について

自主的な審議（公開）

（1）今後の活動について

3 開催日時

令和8年5月18日（月）午後6時30分から午後7時27分まで

4 開催場所

高田城址公園オーレンプラザ 研修室・会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）

・ 委 員：澁市会長、栗田副会長、廣川副会長

上原委員、北川委員、佐藤委員、下村委員、杉本委員、富田委員

町委員、宮崎委員、村田委員、山岸委員、吉田委員、淀野委員

渡部委員（欠席4人）

・ 資産活用課：竹下課長、小林係長

・ 事務局：南部まちづくりセンター 稲田所長、小池副所長、荒川係長

8 発言の内容

【荒川係長】

・ 飯塚委員、柴田委員、茂原委員、山崎委員を除く16人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【澁市会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：廣川副会長、吉田委員に依頼

— 次第2 報告事項（1）未利用財産の利活用に向けた取組について —

【澁市会長】

次第2 報告事項（1）未利用財産の利活用に向けた取組についてに入る。
担当課より説明を求める。

【資産活用課：竹下課長】

- ・資料「市有財産（高田地区未利用市有財産）サウンディング型（対話型）市場調査実施要領」により説明

【澁市会長】

ただ今の説明について、質疑を求める。

【吉田委員】

エントリーシート番号1に「法人名又はグループ名」とあるが、グループとはどのような人たちになるのか。

【資産活用課：竹下課長】

最近では、共同企業体で提案されるケースもあるため、複数の事業者が集まり、共同で提案することも可能である。

【澁市会長】

個人には参加資格はないのか。

【資産活用課：竹下課長】

市として市場調査やプロポーザルを行う中では、個人が大きな土地を動かす力を持つことは難しいため、このような提案は、基本的には法人格を有していること、または任意団体であったとしても、きちんとした母体がある団体・法人からと考えている。一方で、住宅地としてしか利用できない土地を売る・貸す場合には、個人を対象としている。

【澁市会長】

今回の公募を見て、数人が集まり、グループを作って応募することはできるのか。

【資産活用課：竹下課長】

内容にもよると思うが、任意団体の場合は、規約などがしっかりしているのであれば、提案をいただこうと考えている。個人だけが集まったグループは想定していない。

【宮崎委員】

私は、前回の会議で南高田の話をした。そのことが昨日の新聞で報道されたが、前回の会議で説明された内容と違っているように思う。前回の会議では、現在、地元の協議会と相談しており、5月中に発表できる状況であるとの話であったが、新聞の報道では、今の高田地区の説明と同じことをしている。これまでやってきたことがまともならず、公募という形になったのではないかと。だから、私は前回の会議で、南高田も加えてほしいと提案した。

【資産活用課：竹下課長】

南高田は、従前から民間により利活用が進んでいたが、事業者が撤退し、令和3年頃から未利用になっていた。南高田の市場調査は先行して実施し、すでに終了しており、引き合いが2社、3提案あった。市場調査で需要があったため、5月から事業者を決定するためのプロポーザルに進むという説明をした。

【宮崎委員】

事業者をプロポーザルで募集するという事は、前回の説明と矛盾しないのか。

【資産活用課：竹下課長】

事業者決定のためのプロポーザルを5月から実施するという話をしており、その情報が新聞記事に載っている状況である。

【澁市会長】

未利用財産の利活用に向けた取組については終了とする。

その他事項として、上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組のスケジュール変更について、担当課より説明を求める。

【資産活用課：竹下課長】

・資料2により説明

【澁市会長】

ただ今の説明について、質疑を求めるがなし。

以上で、次第2 報告事項（1）未利用財産の利活用に向けた取組についてを終了する。

（資産活用課退席）

— 次第3 自主的な審議（1）今後の活動について —

【澁市会長】

次第3 自主的な審議（1）今後の活動についてに入る。

事務局より説明を求める。

【荒川係長】

・資料No.1 より説明

【澁市会長】

大雪対策と青田川については、事務局の担当課への確認により、市や県、町内会などが対応していることが確認できたため、自主的な審議事項として今後話し合っていくことはせず、問題点が出てきたときに、改めて議題として取り上げることにしたいと思うが、意見はあるか。

【淀野委員】

青田川のことは私が提案した。県の親水性を持たせる環境整備により舗装した部分が土砂で埋まっており、そこに生えてきた草の除草作業をしている。これは、元々の環境整備によって作られた環境とは違うため、今の状態のままでよいのかという話をした。一部ではあるが、大手町小学校に一番近い橋の下は、舗装が出てきている。このような場所が少しずつ増えているため、気付いた方が舗装を出すための作業をしているのだと思う。しかし、おそらく土砂を川に落としているため、川が土で盛り上がっている場所がある。舗装が埋まっていることに気付き、作業している方もいるが、舗装されていることを知らないまま草刈りが行われていることは、本来の維持活動ではない気がする。しかし、青田川の桜は名所になり始めているため、何十年も前に始まった親水性を持たせる環境整備は、今に繋がっているのではないかと感じる。

また、青田川を愛する会の方から、青田川をホテルが飛ぶ川にしたいと聞いたこと

がある。親水性を持たせる環境整備により舗装したことが、結果として、ホタルにとって良くない環境であり、今の川の状態のほうが、ホタルが飛ぶ川になるのではないかと思う。この点について、青田川を愛する会はどう考えているのか関心がある。

ここで話し合うべきか判断できないが、地域協議会で意見を聞くことは、青田川の景観をさらに良くするための一つ的手段ではないかと考える。維持活動ができていないのであれば、別の方法があるかなど、関心を持っていただければと思った。

【澁市会長】

問題点は、親水性を持たせるためにコンクリートのようなもので舗装をしたが、土砂が溜まっているということか。他の問題点はあるか。

【淀野委員】

もう一つの問題点は、県や市は管理しているとのことだが、舗装の上に溜まった土砂から生えている雑草を除草しているだけで、本来の親水性を持たせる環境整備の維持ではないのではないかという点である。

【富田委員】

青田川を愛する会がどのような活動をし、どのような問題点があるかについて、これまで地域協議会において話を聞いたことがないため、青田川を愛する会の方に来ていただき、活動経緯を話してもらうのはどうか。どのような課題や問題点があるかを明確にし、地域協議会として何をすべきかを検討するような進め方がよいと思う。

【澁市会長】

青田川を愛する会の関係者は、何人も地域協議会に参加している。前地域協議会会長や上原委員、北川委員も会員である。上原委員と北川委員から、青田川を愛する会がどのような活動をしているか、簡単に説明いただきたい。

【上原委員】

ホタルには挑戦し、県に依頼しホタル水路も作った。河川の壁面をコンクリートにする話もあったが、自然を重視し土のままとし、草刈りは各町内のボランティアにお願いする形を取った。ホタル水路では、ホタルの幼虫やホタルを育てるために必要なカワニナを集めた。しかし、近年の雨による洪水のため、青田川が穏やかに流れる川ではなくなってしまった。大水のときには、青田川にも水を流すということで、県の取り決めが変わってしまい、ホタル水路が上流からの土砂により少しずつ潰れてき

てしまっている。大きな川でホタルを育てることはできない。越路町に酒造が主体となっている団体があり、そこは酒を作りながら、協力してもらっている農家の用水路を使い、ホタルを育てている。それくらい綺麗な水と緩やかな流れでなければ、ホタルを育てることはできないため、ホタルは断念した。

青田川を愛する会では桜を植えてきたが、植える場所が徐々に減少し、桜の植樹を断念している。桜以外では、モミジやハギを植えている。また、協力的なところはアジサイが植わっている。すべての青田川沿いの町内が、草刈りのボランティアをしているわけではないため、青田川沿いは景観の良いところと悪いところがあるのが現状である。青田川を愛する会のほかに、青田川沿川協議会があり、年1回、町内会長が集まり会議をしている。

【澁市会長】

青田川を愛する会は、町内会も関係しているのか。

【上原委員】

町内会だけでなく、個人も事業所も関係している。

【澁市会長】

青田川は、上流はどのあたりからで下流はどのあたりまでか。

【上原委員】

黒田小学校の奥のあたりから、東本町3丁目を越え、高土町を越え、関川に流れている。

【淀野委員】

親水性を持たせる環境整備の後に水量に変化があり、水位が上がり、その結果、堆積する土砂が増えてきたため、整備した舗装を出したり、汚れを落としたりということ断念したということか。

【上原委員】

そうである。小学生が青田川の生き物の観察をするときは、上流で水を止めるよう県へ依頼し、水量を減らした上で、子どもたちが川に入れるようにしている。

【淀野委員】

水量が変わったということで納得したが、当初の予定とは異なる結果となったということか。

【上原委員】

理事ではないため、詳しい経緯はわからないが、大水があった場合は、青田川にも放流せざるを得ないと町内は報告を受けている。

【澁市会長】

青田川は、市ではなく県が管理をしているため、自主的審議事項として取り上げず、個々の問題が出てきた時に考えるほうがよいと思う。県の管理方法を勉強してからでないと、自主的審議事項として取り上げることは難しいと思う。

【淀野委員】

これまで環境整備を行ってきたが、川の水量が変わってきたことで予定が変更となり、上手く利用されていない状態になってしまったという理解でよいと思う。

【上原委員】

ホタルを育てることは大変であり、人材確保が問題となる。以前、詳しい方がおり、しばらく協力してくれたが、高齢となりできなくなってしまった。金谷山の麓のホタルは今どうなっているか。

【栗田副会長】

広がっていったいない。

【上原委員】

金谷山の麓がまずはホタルの生育に取り掛かったと思う。

【廣川副会長】

今もホタルの看板は出ている。

【上原委員】

遊歩道を作り、車椅子でも通れるようになっている。

【澁市会長】

青田川は洪水になると、100トンほどの水が流れ、流速は約2m/秒になることから、青田川にホタルが生息することは難しい。ホタルが生息するためには、田んぼにあるような幅が1メートルほどの水がきれいで流れの速くない水路が適しており、カワニナが生息している環境が必要である。ホタルを増やしたいのであれば、そのような場所を選ばないといけない。

大雪対策と青田川に関しては、今日をもって話し合いは終了とする。直接関連する

問題が出てきたり、皆さんから提案があったりした際に考えたいと思う。

今後の自主的な審議で取り組む活動を検討するため、皆さんが日々の生活の中で感じている身の回りの課題についての情報を共有したいと思う。また、前回、富田委員から高田の歴史の勉強会の提案があったが、高田の歴史は開府400余年と非常に長いため、何を焦点にするかを考えてから取り組む必要がある。

私の家の周辺は空き家が増えている。人が住んでいる住宅より、空き家のほうが多くなっている。行政に頼らざるを得ないところはあるが、我々としても少し考えなければいけないと思う。

【富田委員】

金谷区地域協議会で空き家対策を自主的審議事項として取り上げ、行政から回答をもらっているが、なかなか難しい問題である。特に、特定空き家は壊れるほどの状態になってからでは遅いという問題がある。特定空き家に近い状態になると、不動産会社も介在しないため、まだ住めるような状態のうちに手を打たないと採算が取れない。何とか事前に不動産会社が関わり、販売できないかという話になったが、市からの射た回答はなかった。

【栗田副会長】

自主的審議事項の話し合いの方法として、いくつかのグループに分け、少人数で話し合い、課題を出す方法はどうか。課題がいくつかあるのなら、分科会で扱うという手順で進めるのがよいと思う。

【澁市会長】

前の期の時に、3グループに分け、3～4ヶ月かけて高田区の将来や発展性について議論したが、非常に良い試みであったと思う。少人数の話し合いの方がよいという声があれば、2～3グループに分け、グループディスカッションをしたいと思う。例えば、「これからの高田区の将来に向けての課題は何か」というような共通の議題について、それぞれのグループで議論し、課題を見つけ出すという方法もあると思うが、意見はあるか。

【富田委員】

3～4年前に、地域への若者の参画と災害対策の2つの項目について少人数で議論した。事前に議論する内容を周知してからグループディスカッションをすると、視

野が狭くなるという意見もあり、どちらがいいのか悩ましい。グループディスカッションをするにあたり、どのような話し合いからテーマを作ったのか、皆さんに説明してから議論に入ったほうがいいのか、まったく説明せずに議論を始めたほうがいいのか、2つ方法がある。グループディスカッションをするのであれば、9名の新人委員によく説明してから進めたほうがいいのではないかと思う。

【澁市会長】

人それぞれ意見があるため、どちらが正しいか判断はできないが、グループディスカッションを試みるしかないのではないかと思う。来月の会議では2～3グループに分かれ、高田区地域協議会が取り組むべき課題について議論してみるのはいかがでしょうか。例えば、2グループに分かれてグループディスカッションをするのであれば、両副会長が司会をし、会長である私はどちらかに参加する。

ただし、来週は報告事項として、地域自治の推進に向けた今後の方策案についての説明があるため、そのあとにグループに分かれ、どのような課題について議論するかを話し合うことになる。グループディスカッションについて、皆さんの意見を伺い、正副会長と事務局とで決めたいと思うが、意見はあるか。

【村田委員】

2グループに完全に分ける形式はあり得ると思うが、別のグループでどのような話が出ているか、わからないままその日が終わるより、グループ討論と全体討論を組み合わせ、その日のうちに全体で情報を共有する形のほうがよいと思う。グループで交流しながら普段の思いを話し合い、最後に全体で発表することとし、部屋を分けてまではしない方がよいと思う。

【澁市会長】

時間があればそうしたいが、来月は市の説明がある。1時間の中で市の説明を聞き、残りの時間でグループディスカッションをする。さらに、その後に全体で報告し、議論するとなると、全体で2時間くらいかかってしまうため、少し難しいと思う。

【北川委員】

これまでも、2～3回ほどグループに分かれてグループディスカッションを行ってきたが、出てくる課題は、おおむね大雪、雁木、買い物難民、福祉などとなっている。地域の課題を委員の中で共有することが目的なのか、その先の解決を目指すこと

が目的なのか不明確である。これまでは、意見を出し合うだけで終わってしまっている。これまで出てきた課題以外の新たな課題についての話し合いであれば、もう少し意義があると思う。

【澁市会長】

現時点で結論は出せないと思うが、方向性としては、与えられた1時間のうち30分間は2グループに分かれ、「高田区の将来に向けて、どのような問題を解決していけばよいか」という議題でグループディスカッションを行いたいと思う。

【富田委員】

1時間にこだわる理由は何か。

【澁市会長】

私はいつも8時までには終わらせたいと思っている。明確に1時間と決めているわけではないが、予定がある方もいるため、おおむね1時間と考えている。

具体的なグループディスカッションの進め方については、正副会長と事務局で話し合っ決めてたいと思う。

以上で、次第3 自主的な審議（1）今後の活動についてを終了する。

— 次第4 事務連絡 —

【澁市会長】

次第4 事務連絡に入る。

事務局より説明を求める。

【小池副所長】

- ・今後の地域協議会等の日程連絡

第3回地域協議会：6月15日（月）18：30から

高田城址公園オーレンプラザ

第4回地域協議会：7月27日（月）18：30から

高田城址公園オーレンプラザ

【澁市会長】

- ・ただ今の説明について質問を求めるがなし

- ・全体を通して質問等を求めるがなし。
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL: 0 2 5-5 2 2-8 8 3 1 (直通)

E-mail: nanbu-machi@city. joetsu. lg. jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。